

「別れを告げる」

1. はじめに

・「別れ」は人生につきものですが、パウロの十余年の伝道旅行の中での別れでした。パウロはエペソの兄弟たちに何を伝えたかったのでしょうか。

2. 本文

A. 17節～25節 パウロの生活の要約

①エペソに使いを送って、教会の長老たちを呼んだ。17節

②私は、主に仕えました。19節

・謙遜の限りを尽くし、涙をもって、～

③益になることは、あなたがたに知らせました。20節

④いま私は、心を縛られて、エルサレムに上る途中です。22節

・「霊」に促されて、～（共同訳）

⑤私の顔を、あなたがたはもう二度と見ることがないことを、いま私は知っています。25節

B. 26節～38節 別れのメッセージ

⑥私は、すべての人たちが受けるさばきについて責任がありません。26節

・パウロが言い切ったのは、「私は、神のご計画の全体を、余すところなくあなたがたに知らせておいたからです。」27節

・「わたしを聖なる者としなかった。」民数記20 : 12

・「これは信頼できることばですから、私は、あなたがこれらのことについて、確信をもって話すように願っています。」テトス3 : 8

⑦あなたがたは自分自身と群れの全体とに気を配りなさい。28節

・狂暴な狼が群れを荒らし回る。29節

・指導者の中からも曲がった教えを説く者が現れる。30節

⑧いま私は、あなたがたを神とそのめぐみのみことばとにゆだねます。32節

⑨「受けるよりも与えるほうが幸いである。」と言われたみことばを思い出すべきことを、私は万事につけ、あなたがたに示して来たのです。35節

3. まとめ

①私たちはクリスチャンとして、日々の生活の中で心配をどうしますか。

パウロは

・狂暴な狼が群れを荒らし回る。29節

・指導者の中からも曲がった教えを説く者が現れる。30節

・あなたがたを、神とめぐみのみことばとにゆだねます。32節

私たちは

・～心配するのはやめなさい。～。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。

マタイ6 : 31 ~ 33